

テーマ： 『自然に親しみ、自分の考えを持ち、進んで学習する子』
～理科・生活科の学習をとおして～

座間市立 立野台小学校

Tel. 046-254-8100

担当者： 磯貝 定徳



4学年の実践 「もののあたたまり方」



2学年の実践報告「つくってあそぼう」

■実践内容:

本校では、「予想」し「考察」する場面で、自分の考えを持ったり、整理したり、表現したりすることができることから、この2つの場面での子どもたちの活動に特に重点置き、授業を組み立て、各学年ごとに目標を設定し授業研究を行うようにした。

■実践成果:

1学年の実践「むかしからのあそびをしよう」:こまづくり名人を招いているいろいろな種類のこまや、こま作りの工夫を知り、自分が新しく作りたいこまを絵に描きそれを元に「世界で一つだけのこま」を作って遊ぶ活動を行った。

・独楽作り名人との交流が自ら考え行動することにつながった。

3学年の実践「植物のつくりとそだち」:春に種をまいた植物(ホウセンカ・マリーゴールド)は、どの様に育っているのだろうかを観察し、土の中では、植物の体はどうなっているのかを予想させ、植物の根はどうなっているのかを観察した。また、野原の植物はどんな作りになっているのか観察する活動を行った。

・自分で育てたものを観察するとじっくり愛着を持って詳しく観察できるので、自分で育てることの大切を感じた。

5学年の実践「てんびんとてこ」:てんびんは、どんなしくみになっているか考え、てんびんを作って重さを比べる活動をし、重さのちがうおもりでも棒をつり合わせるができるか考えた。実験用てこを使って棒がつり合うのはどんなときか考え、てこの働きを利用して活動し、身の回りの道具を見直すことができるようにする活動を行った。

・児童が自分でてんびん作りを行うことで、興味を持って取り組んでいた。また、一人ひとりが実験の操作をすることができるので意欲を保つことができた。

6学年の実践「生物とかんきょう」:植物は、生きていくための養分をどのように得ているのか、考えた。まず、植物は、葉に日光が当たると、自分ででんぷんをつくるのか考え、植物の葉に日光が当たると、でんぷんができるかどうかを実験して調べた。私たちが食べている食物のものは、何かを考え、枯れた食物を食べるダンゴムシを調べた。植物の体から、どれくらいの水が出ていくのか、植物と空気には、どんな関係があるのか考える、という活動を行った。

・実験の手順や実験結果の予想および、結果の考察について話し合い活動を活発に行うことができた。友達の考えを聞くことによって、より深い考察を得ることができた。

特別支援級の実践報告「おいしい大根をつくろう」:大根を育て、成育の様子を観察し、観察したことや感じたことを絵やことばで表した。大根を収穫して、家に持ち帰り、味わうとともに、大根を販売する活動を行った。また、大根を調理して、味わう活動をした。

・大根の他にじゃがいもやさつまいもも育てたので、自然への興味・関心が広がり、意欲的に活動することができた。

■実践ポイント:

○教科書の内容に沿った授業展開ながらも、研究の主題に沿って、子ども達が自ら考え、表現し、関心を持つにはどのような活動を行っていけば良いかを考え工夫して実践したこと。

○「自分の考えを持つ」「表現する」という重点については、理科だけでなく全ての教育活動の中で取り組んだこと。

○いろいろな実験器具を取り入れ、工夫し、教材にも自作教材を取り入れて実践したこと。また、ワークシートを活用したこと。